専門家派遣事業 優良事例 05

ファンドレイジング

ファンドレイジング強化で支援先開拓と孤独感解消

NPO法人フードバンク浜っ子南

専門家派遣実績
6回 8時間

団体概要

所在地	神奈川県横浜市
代表者名	代表理事 下山 洋子
設立年	2020年
スタッフ数	0名
ボランティア	40名
活動日数	月15日程度

https://www.fbh-minami.org

2022 年度活動実績

取扱量	17.5 トン
食料提供者	19 社
食料提供先	約 23 団体 約 180 世帯

活動内容
横浜市内で毎月5カ所各1回、ひとり親家庭に食品提供支援（フードパントリー）を行う。
また、子ども食堂・地域食堂・学習支援団体・児童福祉施設等にフードデリバリー並びにフードドライブも。

団体が直面していた課題

課題解決へステップアップ
昨年度も専門家派遣を利用。その際は団体運営全般に対してのサポートがあり、課題が明確になった。今年度はその課題解決に向け別の専門家を希望。

寄付比率を高めたい
固定費捻出のため財源を安定させたい。そのためには期間限定の助成金に頼るより、寄付比率を高めたい。

ファンドレイズへの苦手意識
ファンドレイズの理解が漠然で苦手意識もあり、具体的な行動に移せなかった。

▲フードパントリーの様子

専門家から見たポイント

派遣された専門家
御手洗 薫 氏
株式会社岡澤商店

正しい理解で不安を拭う
“得体の知れぬファンドレイズに取り組む”という不安が見えたため、実践に落とし込めるよう理解したい内容を明確化。ファンドレイズの全体像・法人寄付・個人寄付の3つに絞った。
また、団体全体の底上げを目指し、スタッフ3名を同時にサポート。

理解によるパラダイムシフト
ある職員は理解が進むと、ファンドレイズにはこれまでの人生経験を生かせると気づいた。前職の企画営業の経験が活用でき、商品を寄付に変えただけと認識したことで、行動への大きな一歩に。

チームワークの強化
職員間で共通認識が醸成され、コミュニケーションが活性化した。

どんな変化が起きた？

食品寄贈企業と個人サポーターを獲得
企業へアプローチした結果、食品寄贈と寄付を新規獲得。
また、訪問先の社員が継続寄付サポーターに。

仲間への意識
理解が深まると“寄付集めは仲間集め”だと気づく。これは今いる仲間をもっと大切にする姿勢にもつながり、スタッフが感じていた団体内での孤独感を和らげることとなった。

団体担当者より
BtoBにおける仲間づくりでも、関係性を繰り返し温めていかなければならないことを学びました。チャリティイベントを初めて企画し、おかげさまで新たな方々からご協力いただきながら実現でき感謝しています。
これからもチームメンバーと一緒に前進したいと思います。

代表理事
下山 洋子さん

専門家派遣事業 優良事例 06

行政連携

成功事例を担当者と共有し行政連携に向けて前進

フードバンクあしかが

足利市との意見交換会の様子

専門家派遣実績
1回 4.5時間

団体概要

所在地	栃木県足利市
代表者名	理事長 髙沢 友佳里
設立年	2020年
スタッフ数	0名
ボランティア	8名
活動日数	週5日

https://foodbank-ashikaga.amebaownd.com/

2022 年度活動実績

取扱量	5.29 トン
食料提供者	88 社
食料提供	5 団体 257 世帯＋α

活動内容
「食品ロス削減」と「食べ物を必要とするところへお届けする」活動とを柱として、主に足利市内の食品ロスを受け入れ、足利市と連携しながら食に困る方々や学童保育施設、社会福祉団体などへ無償配布する。

団体が直面していた課題

行政連携の強化
行政連携を昨年から行い一定の成果はでているものの、さらに強化したいと考えている。フードバンク活動が生活困窮者の早期発見にも有益であるなど、行政施策との相乗効果を生むことを伝えながら進めたい。

将来的には学校連携も
生活困窮者を早期発見するためには、学校との連携も必須。行政・学校と連携して食糧支援を行うことが、行政のベネフィットにもなると考えている。

▲配布会の様子

専門家から見たポイント

派遣された専門家
阿部 知幸 氏
認定NPO法人
フードバンク岩手

堅実な活動内容
同団体の活動は食料配布はもちろん、商業施設等と協力したフードドライブや、民生委員との連携等、堅実な活動を続けて取扱量も増加。足利市からの信頼も厚い。

行政連携の実施例を共有
食品を団体から市へ、市から困窮者へ渡すというシステムはできあがっているものの、生活困窮者の早期発見にまではつながっていない。
足利市との意見交換会にて、フードバンク岩手と盛岡市の連携例を取り上げ、連携時の進め方やそれぞれの注意点などを紹介。連携を実現する上での不安点を共に確認し合い、生活困窮者の早期発見に繋がる連携方法を提案した。

どんな変化が起きた？

学校連携を含む市の計画
意見交換会後に社会福祉課の担当者から「事業化できるかもしれないので相談したい」と話があった。足利市には、学習支援している子どもたちへの食品支援を切り口に生活相談につなげる計画があり、その事業への参画で現在調整中。学校連携も現実的になっている。

団体担当者より
私たちはありがたいことに行政とも良い関係で連携できています。専門家派遣事業では、フードバンク岩手の重層的な取り組みを行政はじめ関係団体と共有できました。今後どのような方向で連携していけるかを一緒に考える機会をいただきました。それぞれが無理なく関われる仕組みを模索していきたいと思います。

理事長
髙沢 友佳里さん

行政や企業との連携に向けて地域連携の検討会を実施

認定NPO法人葵風

専門家派遣実績
6回 12時間

団体概要

所在地	愛知県岡崎市
代表者名	理事長 月東 佳寿美
設立年	2015年
スタッフ数	12名
ボランティア	8名
活動日数	週1日

https://aoinokaze.or.jp

2022 年度活動実績

食料提供者	25 社
食料提供先	約 4 団体 約 200 世帯

活動内容
問題行動のある子どもたちやその家族への支援の必要性から、放課後等デイサービス・緊急支援・相談支援のほか、子ども食堂やフードバントリーの事業を行い、学校職員や児童相談所職員の依頼により、連携して直接支援を実施。

団体が直面していた課題

地域内連携と自団体の活動意義

障がい者やその保護者を支える放課後デイサービス等を主軸に活動しており、福祉関係者からの信頼は厚かった。一方で、フードバンクの活動歴は浅く、他の地域内プレーヤーと連携して活動を発展させていく方向性や、自団体が行う意義は見えていなかった。

人員体制と資金面からの基盤強化

フードバンク活動は他事業の収益を切り崩しながら、代表とボランティアで担っている状態だった。

▲放課後デイサービスの様子

専門家から見たポイント

派遣された専門家
鈴木和樹
NPO法人フードバンク
ふじのくに

既存のフードドライブ活動を生かす

岡崎市では市と社協が連携し、2021年から“OKフードドライブ”と打ち出し、生活困窮世帯を広く対象に、食品や生活用品を配布するアウトリーチ活動を実施している。そのような地域に根付いている仕組みを活かし、フードバンク活動を発展させていくことが大切だと伝えた。

市や社協、企業を集め検討会を実施

農林水産省のフードバンクスタートアップ支援事業の補助金を活用し、市や社協・地域包括支援センター・食品企業等を招き、地域連携検討会の実施を提案。補助金の提案書作成や、採択後は検討会の企画と運営を支援し、計4回の検討会を実施。

どんな変化が起きた？

行政・社協・企業との連携

市と葵風の連名でOKフードドライブを新たに展開予定。昨年度の専門家派遣で、衛生管理や受領証等の仕組みを整備したため、団体の信頼度向上や、行政との連携が進んでいた。それらを追い風に、スーパー等の企業と食品寄贈に向けて交渉開始。食品配布時にも連携し、葵風の支援先である社会的養護者等への食支援も開始する。

団体担当者より

いままでバラバラだった食支援、フードバンク事業でしたが、行政がそれぞれ行っていた方法を把握し、問題点やそれぞれの悩みなども多方面の支援者が理解でき、解決方法を一緒に考えるとても良い機会になりました。また、ルールやさまざまな事例などを知ることができました。

理事長
月東 佳寿美さん

中間支援組織としての“みんなのフードバンク”

特定非営利活動法人フードバンクふじのくに

団体概要

所在地	静岡県静岡市
代表者名	理事長 日詰 一幸
設立年	2014年
スタッフ数	7名
ボランティア	10名
活動日数	週5日

https://fb-fujinokuni.org/

2022 年度活動実績

取扱量	100 トン
食料提供者	188 社
食料提供先	4414 件

活動内容
静岡県内の各団体との連携の中で、個人や企業から食料を預かるプラットホームとしての役割を担う。近年では、子ども食堂に代表される子どもの貧困問題への対応を通じて、食のセーフティネットの輪を広げている。

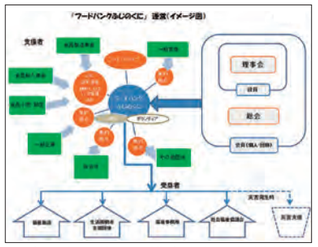
地域や団体の課題

セーフティーネットの機能不全

生活保護・自立相談窓口・貸付制度等、生活に困窮した状況を解決するための制度間で、情報連携がされていなかったり、サービスの存在が知られていなかったりすることで、活用しきれていない生活困窮者が多い。

構造的に発生する食品ロス

規格外品や災害備蓄品等が定期的に発生する。これらを必要な人に届けるため食品寄贈と配布のネットワークの広域化を目指している。



▲官民各団体から構成される組織体制

団体のここがポイント！

県内全域を視野に入れた支援体制

コンソーシアム方式を採る中核団体である同団体だからこそ、予算・食品が集まりやすい。その上で、NPO団体・ボランティア協会・生活協同組合等が窓口となって、生活の助けとなる情報や食料が必要な人に届けられる体制がとられている。

困窮者支援窓口と社会福祉協議会の連携

県内全域において連携が図れているため、食品配布の機会が見守りの役割を果たしたり、生活上必要な人に食料が届けられたりしている。加えて就労支援団体の協力によりワークシェアを行い、“集める・仕分ける・配布する”のサイクルの中で必要な役割を担い合える仕組みになっている。

担当者に聞いてみた

フードバンクふじのくに
事務局次長
鈴木 和樹さん

Q.広域サポートの際に負担になりがちな配送料は？

生活困窮者自立支援法によって、食品配布を担っている社会福祉協議会がフードバンクの送料を負担している。赤い羽根募金によるサポートもあり、配送料の負担ゼロが実現している。

Q.行政との連携ポイントは？

例えば社会福祉協議会は、設立時より検討委員会に参加いただき、積極的に食品集めに協力してもらっている。
定期開催する独自の情報交換会でも、ボランティア受け入れの仲介役を担ってもらっている。

Q.こども食堂等と連携するにあたって注意していることは？

常温品だけに特化して取り扱い、冷凍・冷蔵品はより適切に管理できるこども食堂に限って提供している。

市役所内に食料倉庫を設置 密な連携で効率アップ

NPO法人フードバンク狛江

団体概要

所在地	東京都狛江市
代表者名	理事長 田中 妙子
設立年	2015年
スタッフ数	有給1名
ボランティア	約22名
活動日数	週2日

https://fb-komae.org/

2022 年度活動実績

取扱量	約 22 トン
食料提供者	のべ 75 社 のべ個人 430 人
食料提供先	のべ 2140 世帯 のべ 4800 人 162 件（子ども食堂等）

活動内容

地域密着のフードバンクシステムを構築する。また、食の分かち合いを食品ロスの削減や生活困窮者の問題等として提起し、地域に発信することを通して共に支え合う心豊かな地域社会を創ることを目指している。

地域や団体の課題

倉庫の課題

フードバンク狛江は東京都狛江市内のみを活動範囲としている。狛江市役所には生活困窮に関する窓口“こまYELL”があり、団体とも連携しながら食料配布を実施。食料が必要な際には、市役所から離れた団体の倉庫へ都度職員が取りにいっており、支援件数の増加や緊急時の対応などに課題があった。

またフードバンク狛江にとっては、自団体の倉庫だけでは手狭であり、食品取扱量を増やすためにもより広い倉庫が必要だった。

▲子育て応援お渡し会

団体のここがポイント！

狛江市役所内に食料倉庫を設置

フードバンク狛江は2014年の立ち上げ時より、こまYELLと密な連携を図りながら食料配布を行なっていた。

倉庫の課題を抱えていたところ、市役所内で喫煙所が閉鎖され使われていなかった物置部屋を食料倉庫と支援食品セットの作業所として活用できることに。

これにより、フードバンク狛江は自団体の倉庫に加えより多くの食料を取り扱えるようになった。

また、こまYELLとしても都度離れた倉庫へ食料を取りに行く必要がなくなったため人員や時間の負担が減っただけでなく、緊急時にすぐに食料を取り出せるようになった。このように互いに利便性が向上し、不足する人員や設備を連携によって補っている。

担当者に聞いてみた

NPO法人フードバンク狛江
理事長　田中 妙子さん

Q.市役所の中に倉庫があることでの波及効果は？

支援窓口との連携が密にできることが大きい。また、市との連携をウェブサイトで発信したことにより、企業からの問い合わせや講演依頼が増え、信用性の担保やフードバンクの認知度向上にもつながっている。

市役所内の倉庫とともに、市役所の機材置き場となっていた消防団の空き器具庫も借りることができ、食品の取扱量が格段に増加した。

Q.今後の展望について

市役所内に倉庫があることで信用性の担保はある。それを背景に市内の福祉団体や食品寄贈者と連携し、食の分かち合いを進めていきたい。そして、どんな支援が必要かを地域で一緒に考え、地域密着のフードバンクを目指したい。

シンポ開催で認知度向上へ フードドライブ始動も

特定非営利活動法人らしく

専門家派遣実績

1回 6時間

団体概要

所在地	宮崎県都城市
代表者名	理事長 甲斐 圭子
設立年	2021年
スタッフ数	有給3 名
ボランティア	6名
活動日数	週3日

https://foodbank-miyakonojo.org

2022 年度活動実績

取扱量	5 トン
食料提供者	4 社
食料提供先	約 11 団体 約 300 世帯

活動内容

すべての子どもたちが夢や希望を持てる社会の実現に寄与することを目的として活動。食料は企業中心に受け入れ。提供された食品は個別配布（ひとり親家庭）や各支援団体に配布している。

団体が直面していた課題

食支援を行う団体の重複

宮崎県内において、フードバンク・フードパントリー・子ども食堂など、食品寄贈を受け配布する団体や取り組みのすみ分けができていない。食品提供企業が寄贈先選びに迷う状況。

認知度の低いフードバンク

食品をまとめて集め、必要な団体や施設に適切に配分するフードバンクという役割について、企業・行政・市民などに知ってもらい、食品寄贈量の増加につなげる必要がある。

▲活動拠点の様子

専門家から見たポイント

派遣された専門家
岩崎 幹明 氏
特定非営利活動法人
フードバンク福岡

シンポジウムを開催し認知度アップへ

フードバンクの認知度向上を目指し、宮崎県都城市において“今、何故フードバンクが必要か！！”というテーマでシンポジウムを開催することに。私は専門家派遣の仕組みを活用し、講師として登壇した。当日は、行政・社協・スーパー・フードバンク団体など約50名の参加があり、フードバンクが地域で担う役割や今後築きたい関係性などを共有できた。

地域全体で協力する必要性

参加者アンケートでは、参加者全員から満足の評価があった。また、フードバンク活動は地域だけでなく九州全体で考える必要性があることを確認することができた。

どんな変化が起きた？

フードドライブ設置へ

シンポジウム当日にフードドライブを具現化したいと食品企業から相談を受け、その後集められた食品が当フードバンクに提供された。

発信を継続し運営資金を確保

ウェブサイトやメディアなどで発信を続け、活動を見える化し共感者を増やすこと、そして寄付の仕組みと運営体制を整備し、運営資金を確保する必要性を感じた。

団体担当者より

岩崎さんの協力で、社協や企業・支援団体などと一緒に考える機会を設けることができました。シンポジウム開催後、地元企業がフードドライブを実施するなどの動きもあり、開催して良かったです。疑問にも的確にお答えいただき、課題解決のために何ができるか、今後も一緒に考えて行ければと思います。

甲斐 圭子さん

寄贈受け入れ増加に向け企業対応強化とルール整備

一般社団法人鹿児島県フードバンクセンター

専門家派遣実績
5回 7時間

団体概要

所在地	鹿児島県鹿児島市
代表者名	理事長 村上 光信
設立年	2021年
スタッフ数	2名
ボランティア	20名
活動日数	週6日

https://kagoshima-fbc.gicz.tokyo/

2022 年度活動実績

取扱量	40 トン
食料提供者	5 社
食料提供先	約 20 団体 約 20 世帯

活動内容
広く一般県民に対して、食品ロスに関する事業等を行い、福祉の向上、子どもの健全育成と国民の豊かな生活の実現に寄与することを目的とするとともに、その目的に資するための事業を行う。

団体が直面していた課題

県内企業からの食品寄贈が不足

食品寄贈約40トンのうち、約半分は他フードバンク団体からの寄贈。県内企業からの、日持ちする食品の定期的な寄贈を増加させたい。何から取り組むべきか助言が欲しい。

農作物の寄贈受入の運営負担

県内からの寄贈食品の半分以上が農作物。季節性があり足も早いうえ、受け入れと配布に相当の工数を割いていた。そのため、食品寄贈を増やすための企業開拓に時間が取れていなかった。

▲改良した団体HP

専門家から見たポイント

派遣された専門家
米山 廣明 氏
一般社団法人
全国フードバンク推進協議会

企業訪問に向けた準備

オーソドックスな方法として、アプローチする企業リスト・郵送資料・訪問時の営業資料の作成に取り組んだ。質の高い営業リストが作成できるツールの紹介や、郵送資料や営業資料に企業目線から盛り込むべき内容への助言など、実践的な伴走支援を実施した。また、企業向けページに載せる情報を精査した。

農作物の寄贈受け入れのルール整備

受け入れと配布の負担を軽減するためのルール整備と、仕組み化を行った。特に引き取りに時間がかかっていたため、原則、寄贈者に届けてもらい、引き取りに行く場合はボランティアが対応できるような仕組みを構築した。

どんな変化が起きた？

企業開拓に向け積極的に

取り組むことが明確になったことで積極性が増し、企業開拓に向けた準備が着実に進んだ。

本来やるべきことに従事

農作物の受け入れルールを整備した結果、事務局の負担が軽減し、企業開拓や団体運営に時間がさけるように。今後は積極的にボランティアを受け入れるべく、ウェブサイトの募集ページを新たに作成。

団体担当者より

フードバンク活動において団体HPが大切と教えていただき改良を行いました。不要な内容を削除し必要な内容を追加したことで、HPからの問い合わせも増えてきました。また、営業資料の作成やツールの整備を行い営業準備が整いました。ここまでの成果を得る事が出来てスタッフ一同大変喜んでおります。

事務局長
地頭 忠輝さん

品質管理基準の作成や事前確認でスムーズな連携を

NPO法人フードバンク福岡 / 雪印メグミルク株式会社

団体概要

所在地	福岡県福岡市
代表者名	理事長 篠田 陽二
設立年	2016年
スタッフ数	有給10名
ボランティア	10名
活動日数	週3日

https://fbfukuoka.net/

2021 年度活動実績

取扱量	265.1 トン
食料提供者	企業 239 社
食料提供先	235 団体

活動内容
福岡県内のひとり親・行政・福祉施設などに食品提供を行っている。企業と連携する際は、合意書に基づく適正な食品管理を行うことで不安を取り除き、連携企業を増やしている。

地域や団体の課題

食品提供を始めることへの課題

雪印メグミルク㈱九州統括支店ではこれまでフードバンクへの提供実績がなく、フードバンク福岡との連携にあたりさまざまな課題があった。

品質管理部門では、団体の衛生管理や転売のリスク管理の課題があがった。また、物流部門では企業側からドライバーを出せないことや、冷蔵・冷凍品の輸送ができるかどうかなどの不安要素も。

さらに、フードバンクの取り組みを主導する部署がなく、社内外広報が不十分なことも課題のひとつになっていた。

▲保冷剤等で配送時の品質担保を確認

団体のここがポイント！

管理基準の擦り合わせ
（雪印メグミルク）

実際に現場で配送のシミュレーションを行った。その結果、従来の配送方法を変えることなく、保冷バックと保冷剤を使用することで品質が担保されることを確認した。

現在は物流の過程で破損してしまった食品を寄贈するため、品質管理の方法などについて話し合いを進めている。

提供する施設に条件を
（フードバンク福岡）

雪印メグミルクから提供される食品は乳製品が主なので、提供先の施設に冷蔵庫・冷凍庫があるか、また、食品を実際に利用するのはいつかなどを確認した上で提供している。

また、フードバンク団体との連携実績がないことをふまえ、企業側の不安をできるだけ払拭できるよう、衛生管理について入念な意見交換を行った。

担当者に聞いてみた

NPO法人フードバンク福岡
事務局長
岩崎 幹明さん

Q.団体との管理基準の擦り合わせはどのように行いましたか？

事前に視察を行い管理基準を擦り合わせました。視察では①商品保管②5S・防虫③トレーサビリティ④食品防御⑤その他、の観点を元に倉庫や事務所の確認を実施。確認する項目を予め決定し基準を設けることで、企業側も団体の確認をしやすく、団体も企業側の要望に沿った環境を整えることができます。
（雪印メグミルク株式会社　九州統括支店 業務課 仁和浄智さん）

Q.どのようにして様々な企業からの寄付の品質基準を保っていますか？

食品入荷（出荷）時と食品保管時のチェック表を作成し、食品の品質管理を行っています。そうすることで、様々な企業様からの寄付があっても、煩雑な管理を行うことなく品質を保つことができてます。